平成２８年度第１回別府市総合教育会議議事録

１　日　時　　平成２９年１月３１日
　　開会　午前１１時　　閉会　午後０時

２　場　所　　別府市役所５階　大会議室

３　出席者

（構成員）　別府市長　　長野　恭紘
〈教育委員会〉
教育長　　寺岡　悌二
教育委員　　福島　知克（教育長職務代理者）
教育委員　　明石　光伸
教育委員　　髙橋　　護
教育委員　　小野　和枝

（事務局）　総務部長　　豊永　健司
総務部総務課長　　月輪　利生
総務部総務課参事　　本田　壽徳
総務部総務課主事　　首藤　正之
教育参事　　湊　　博秋
教育次長兼教育総務課長　三口　龍義
教育総務課参事　　末光　淳二
教育総務課課長補佐　　三宅　達也
教育総務課課長補佐　　志賀　貴代美

４　議　題
⑴　平成２９年度教育目標（案）について
⑵　その他

○本田総務課参事
　これより平成２８年度第１回別府市総合教育会議を開会させていただきます。よろしくお願いいたします。
　まず最初に、長野市長に御挨拶をお願い申し上げます。

○長野市長
　皆様こんにちは。教育委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中にもかかわらず平成２８年第１回別府市総合教育会議に御出席いただきまして、心から感謝申し上げます。
　ご案内のとおり、平成２７年に法律の大規模な改正がございました。教育委員会と首長である私との関係というのも大きく変わりました。教育委員会の組織自体も大きく改正がなされたわけでございます。昨年度は２回の総合教育会議を開催させていただきました。成果が徐々に上がってきている部分もありますし、まだまだ変化をさせなければいけない部分も沢山あるかと思います。
　平成２８年度、第１回目ということでございますが、委員の皆様方から忌憚（きたん）のない御意見をいただいて、沢山の課題についてしっかりと議論し、成果をしっかりとあげていきたいと思っております。
　私も３人の子どもの子育ての真っ最中でございまして、私の時にはなかったようなことも、今は沢山ありますし、いつも言いますけれども、人工知能の発展で、子どもたちが将来大人になったときに、どういう職業が残っているのかというような不安もあります。
　そういった今日、将来に向けて、しっかりとした子どもたちの生きていく力を見つけていかなければいけないし、将来挑戦をしていく力、様々な力を培っていくためにはどうすればよいのかということを、今、私たちが考えなければいけないと思いますので、是非、忌憚（きたん）のない御意見をいただければと思います。
　どうぞ、よろしくお願いいたします。

○本田総務課参事
　では、これより議事に入ります。
　別府市総合教育会議運営要綱第３条に、市長は議長として会議の議事進行を行うものとすると規定されていますので、以降は、市長に議長として議事を進めていただきます。市長よろしくお願いいたします。

○長野市長
　ただいまより、私の方で議事を進めさせていただきたいと思います。
　別府市総合教育会議運営要綱第６条第２項に規定されておりますので、今回の議事録署名につきましては、寺岡教育長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。
　それでは早速、議題（１）平成２９年度教育目標（案）について説明を事務局からお

願いします。

○末光教育総務課参事
　教育総務課の末光と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。
　別府市教育委員会では、教育行政基本方針を立てるにあたり、「ともに学び　ともに喜び　ともに生きる豊かな人間性の育成」を基本理念としております。この基本理念を基に、平成２３年度から６年間は、「ともに聴きあい　学びあい　ふれあい教育」を教育目標にし、落ち着いた学習態度や学習環境を目指してきました。取り組みの成果は次第に上がり、特に幼稚園・学校教育において、静かで落ち着いた学習環境を生み出すことができたと考えております。
　そこで、平成２９年度からは、今の状況を基に、更に質の高い目標として、「地域に学び、未来を創る人づくりの推進」を掲げ、教育のまち別府を目指したいと考えております。では、この教育目標に至った経緯を、「１　子どもたちを取り巻く社会状況」、「２　文部科学省と大分県教育委員会の方針」、「３　別府市教育委員会の方針」の順に説明をしてまいります。
　はじめに、「１　子どもたちを取り巻く社会状況」についてです。こちらのグラフをご覧ください。これは、これまでの人口の推移と、今後の将来人口を予想したものです。棒グラフが全体の人口を表しています。その棒グラフの赤い部分が１５歳から６４歳の人口、上の緑の部分が１４歳までの人口、下の白とピンクの部分が６５歳以上の人口です。赤い折れ線グラフは、全人口に対する６５歳以上の割合です。一番左が昭和２５年で、赤い丸印のところが平成２７年度、それより右は今後の予測です。
　我が国の人口は、平成２３年から減少局面に入ったと言われております。しかし、既に昭和６０年から、６５歳以上の人口の加速度的な増加が始まっています。つい１１年前までは５人に１人であった６５歳以上の人口の割合は、今や、４人に１人になっており、３人に１人になるのは１８年後と予測されております。これは今の子どもたちが抱える深刻な問題になりそうです。
　先ほど市長のお話にもありましたが、未来の職業や雇用情勢について、学者の中には、子どもたちの６５％は大学卒業後、「今は存在していない職業に就く。」、「今後１０年から２０年程度で約４７％の仕事が自動化される可能性が高い。」、「２０３０年までには週１５時間程度働けば済むようになる。」と警鐘を鳴らす方もおられます。ＩＣＴの急速な進展等により、雇用環境が変容し、失業率・非正規雇用が増加することも予想されており、もし予測が当たれば、これからの子どもたちは人工知能や自動化ではカバーできない仕事ができなくては、仕事がないということになりかねません。
　このような将来への見通しに対し、このグラフをご覧ください。このグラフは国別の高校生に性格を自己評価してもらった結果です。「自分を価値ある人間だ。」と考えている日本の高校生は４割で、アメリカ、中国、韓国の半分以下となっております。そして、自分はダメな人間だと考えている日本の高校生は、８割を超えます。今、将来を担う子どもたちが、自尊心をもって充実した生活が送れるような教育を進めることが求められています。
　次のグラフをご覧ください。このグラフは、日本人留学生と外国人留学生の推移です。赤のグラフが、外国から来た留学生です。青が、日本人の留学生です。外国人の

留学生の数は、これまでで最も高い水準にありますが、日本人の海外留学生の数は伸び悩んでおり、日本の子どもたちの挑戦意欲は高くないようにあります。急速なグローバル化における変化の激しい時代を生きる子どもたちには、今後、多様な価値観を持った人々と協働していく力、挑戦意欲の向上が求められます。

次のグラフをご覧ください。これは、子どもの貧困率です。ここで言う貧困は、おおよそですが、４人世帯の可処分所得が２５０万円未満という程度です。貧困率は、年々悪化しているということが分かります。ちなみに、１％は約１９万人になります。貧困率が高まり、経済格差が固定されるような状況が続くと、意欲の低下や、社会の不安定化が進むとされています。

次に、「２　文部科学省と大分県教育委員会の方針」について説明させていただきます。ここまで説明しました状況を踏まえ、文部科学省は、平成２５年度から２９年度まで第２期教育振興基本計画を策定しています。基本的方向性としまして、「①社会を生き抜く力の養成」、「②未来への飛躍を実現する人材の要請」、「③学びのセーフティネットの構築」、「④絆づくりと活力のあるコミュニティの形成」を掲げております。大分県教育委員会では、平成２８年度から３６年度までの長期教育計画を策定しております。基本理念として、「生涯にわたる力と意欲を高める教育県大分の創造」を掲げ、「①未来を切り拓く力と意欲を身につけさせる教育の推進」「②全国に誇れる教育水準の達成」を目標としています。

では、ここからは、別府市教育委員会の方針について説明させていただきます。グラフをご覧ください。このグラフは、左側が現在の中学１年生、右側が中学２年生の小学生のときからの調査結果の推移です。調査項目は各教科の基礎・活用別で、右に行くほど現在に近づきます。表しているのは全国との差で、真ん中の太い線が全国の平均値、上に行けば行くほど定着していることを表します。ちなみに中学校１年生は、先日初めて調査を受けたのですが、結果は今日の総合教育会議に間に合わず、ここにあるデータはすべて小学生の時の結果です。

また、中学校２年生は右から２つ目以降、この赤い線よりも右側が中学校、左側が小学校の時の推移になります。どちらの学年も小学校の段階から多少の上下動を繰り返しながら、グラフは着実に右上がりになっております。別府市教育委員会では、平成２５年度以降、小学校３年生から中学校２年生までを対象とした別府市学力調査と、いわゆる必ず達成する学力向上計画を組み合わせたＰＤＣＡサイクルを全市的に推し進めてまいりました。そして、小学校の早い段階から弱点を見出し、適切な補充をするという地道で着実な取り組みを繰り返してきた学年が、ようやく中学１、２年生になりました。

では、次のグラフをご覧ください。このグラフは、別府市の子どもたちを学年別で、小学校６年生から中学校３年生までの不登校生徒の推移を表したものです。例えば、緑が今年度の３年生ですが、小学校６年生の時は７人、中学１年生の時は３５人、中学２年生の時は５２人に増えたという見方をします。別府市の不登校の出現率は小学校が１８５人に１人、中学校では２５人に１人であり、全国平均より出現率が高い状況にあります。しかし、先ほど学力調査結果でご説明した現在の中学校２年生は、１２月末現在で１８名とこれまでより少なく、中学校１年生は、１２月現在で２２名とこれまでの中でも低い水準にあります。別府市教育委員会では、確かな学力の定着と、

不登校児童生徒の減少は多少なりとも関連があると考えております。これまで小中学校が連携し、地道に確実に取り組んできた対策が、学力の定着や不登校児童生徒数の減少につながるのではないかと期待しているところであります。

次に別府市の方針について説明させていただきます。平成２８年度に、別府市後期基本計画が策定されました。この計画の冒頭には、市長の公約でもある「地域を磨き、別府の誇りを創生する」ということが理念として掲げられています。その中で、別府の歴史・伝統・文化・産業を磨き続けることこそが、別府の誇りを再建し、新たな誇りを創生することにつながり、別府の歴史・伝統・文化・産業を磨くということは、我々が暮らす地域そのものを磨くということであると述べられています。

別府市教育委員会では文部科学省、大分県教育委員会の計画とこの後期基本計画、また、これまでの成果に基づき、子どもたちや市民の皆様方がこれまで以上に積極的に自分の、別府の、そして世界の未来を切り拓いていけるよう、平成２９年度教育目標として「地域に学び、未来を創る人づくりを推進」を提案させていただきます。「地域に学び」とは、地域の方々と交流し、別府の歴史・伝統・文化・産業・自然を学び、ふるさと別府に愛着と誇りをもつことと捉えております。別府を磨こうとしている大人を見て育つ、自分たち自身が大切にされて育つ、別府のことを学んで育つことで、ふるさと別府に愛着と誇りを持ち、将来色々な形で別府の未来を創ってくれると考えております。

「未来を創る」とは、生きる力を備え、変化の激しい社会に対応し、多様な人々と協働しながら問題を主体的によりよく解決し、自立して生きていくことと捉えています。アクティブ・ラーニングや外国語教育、道徳教育、ＩＣＴ教育等の導入により、生きる力をベースに、急激なＩＣＴ化、グローバル化等の変化が激しい社会への対応ができ、多様な人々と協働しながら、自立して生きていける人づくりを推進していこうと考えております。

以上で、平成２９年度教育目標の御説明をおわります。御意見をいただければと思います。どうぞ、よろしくお願いします。

○長野市長

それでは、ただ今の教育目標（案）について、委員の皆様から質疑等がありましたら、是非よろしくお願い申し上げます。

○福島委員

「地域に学び、未来を創る人づくり」の推進という教育目標は、非常に素晴らしいものでありますが、具体的にどうやるのかということが、これからの教育委員会の課題でもありますし、具体的なよい方策をどうやって作るかというのが１番の問題点と思いますので、それらを皆さんと一緒に考えていきたいという風に私は思います。

言葉足らずなところは、目標の中に少しあるのではないかと思いました。

○長野市長

それでは髙橋委員お願いします。

○髙橋委員
　各学校で、凄くコミュニティが進んでおりまして、先日も、ある小学校で長距離走の大会があったときに、今までは保護者の方、ＰＴＡの方々が御支援されて、子どもたちの走る姿を応援するという姿がみられたのですが、最近では自治会を始め、地域の方々が入ってきて、交通整理をしたりして、地域の子どもは地域で育てていくのだという雰囲気というものが、じわじわ別府から出てきたなと感じており、コミュニティスクールの推進というのは大事なことだと思います。そういう意味で子どもたちには、地域に学び、そういう大人の姿を見て育って欲しいという意を強くさせていただいております。
　ただ、この「未来を創る人づくり」の推進、今、福島委員さんにお話いただいたように、具体的に学校の現場の先生方から、どういうことを子どもたちに教えていけばいいのか、もう少し突っ込んだところを教育委員会は示していかないといけないのかなと思いますし、私自身も凄く責任のあることだと今感じております。
　以上です。

○長野市長
　小野委員お願いします。

○小野委員
　別府というまちは、他所から来た人がまちを歩いていても、自然に子どもの方から挨拶ができる小学校、中学校、高校があるまちと、よくお聞きします。
　地域の方が見守って、子どもたちが大人に挨拶をするような環境で育っていると思っているのですけれども、やはり子どもの未来を作るために育てていく訳ですから、これから先を考えたときに、育って帰って来れるような環境、就職先があるような環境にしていただくと、人材が育っていくのかなと思うことがよくあります。
　以上です。

○長野市長。
　ありがとうございます。それでは明石委員お願いします。

○明石委員
　ここにある平成２９年度の教育目標（案）で、「地域に学び、未来を創る人づくりの推進」というのは、非常にこれは大事なことであります。
　これを具体的に言いますと、子どもの自己肯定感の低さというのが最近非常に出ておりますけれども。これが一番問題ではないかと思います。やはり自分自身に満足いくか、それを大事にしないと。地域を学ぶにしろ、未来を創るということにしても、自己肯定感や、自己満足というものを、ある程度子どもたちに与えるような教育でないと悪いと思います。
　グローバル化における課題では、日本人の海外留学が非常に少なくなったと。これ非常に問題でして。私が大学の頃はですね、自分で奨学金は、何十回も大学に、とにかく出してもらおうと思い、アプローチして留学をとにかくしたい、留学して何をす

るかというより、とにかくそういう所に行って、やってみたいというのがありました。僕たちの頃は、とにかくチャレンジ、興味を持つということが、海外に行くのもそのひとつでしょうけれども、非常にあった訳です。今の医学部の学生さん、今の若い先生たちは、我々がお金を出し合って、奨学金を作ってお金を出すから行って来いと言うけど、誰も行かないのです。若い先生、医者に聞くと、留学して何になるのですかというような事を言われますから。

とにかく色々考えてみますと、今は医療もマニュアル化されているのです。教科書を見たら、肺炎だったら何歳以上、白血球が何などと全部マニュアル化されている。そのとおりに治療していくと、考えなくてもいいといいますか。医学だけとっても、そんな風になっておりますから、やはり教育が一番大事で。医学部教育はこれでいいのかなと。何でもマニュアル化されていますから。

先ほど、市長も言われましたけれども、人口知能が出てきたらどうなるのかということでありますし、あまりエドテック（エディケーション・テクノロジー）が進むと、人との交わりもなくなると思います。ＩＴの時代ですけれども、やはり実体験や人とのつながりだとかをもっと教育の方に入れた方が。ＩＴに突き進みますと、人間性が失われる気がします。特に、中学生が人生において１番多感であって、小学校の後半から中学校というのは、いろんな学校の先生の人柄というかそれによって物凄く左右されると思うのです。だから私は、小中一貫教育もいいのかなと思っているのです。何事にも興味を持っていくという、マニュアル化にならないようなですね。

今、ＡＰＵで教えていますけれども、何でもスマートフォンですよ。我々は図書館に行って調べたりしますけれども、課題を与えたらすぐにインターネットで調べてそれを丸写しで来るのですよ。考える力が全くなくてですね。

教育にチャレンジ、自己肯定感、自己満足がなかったら幸せにならないと思います。これを是非もっと具体的に。海外へ行く留学生が少ないという事実が今現れていると思いますので、是非そういう教育をですね、目指すといいなと思っております。

以上です。

○長野市長

それでは、寺岡教育長よろしくお願いいたします。

○寺岡教育長

この数年間、幼稚園・小中学校の子どもさんを保護者から預かってきましたけれども、先ほどの報告の中に、残念ながら小学校６年生から中学校に入って学校から離れたり、病気、あるいは不登校傾向の子どもさんがいることに対しましても、深い反省と力不足を感じているところであります。この幼稚園、小中学校、今、高校も入りますけれども、どういう教育をすれば、子どもたちが未来に羽ばたけるような力がつくのかということで、今までの教育目標、長野市長からのご指摘がございましたとおり、もっと具体的にはっきりと示すような方向がいるのではないか、ＰＤＣＡをきちんと回せるような目標がいるだろうということで、事務局とも協議をしてきました。

これから生きる子どもたちは、やはりＩＣＴの力、外国語の力、そして人を大切にする心が要るのかなと思います。いわゆる不易流行の「不易」は今までもずっとやっ

てきているのですけれども、流行の面では追いついていないこともございまして、その流行のところで結構学校の中で問題が発生しているという状況でございます。

そういうことを考えますと、子どもたちが、これから生きる未来、いわゆる全く経験のない子どもたちにとって、今からどんな力がいるのだろうかということで、先ほど委員の皆様からありましたように、やはり体験しながら人・心を学び、そしてＩＣＴもこれは今から使わないということは考えられませんので、ＩＣＴとか市長の言うＡＩ、そういうものも取り入れながら問題を解決していこうとする力、問題を解決する学習の推進とか、あるいはコミュニティをいれた体験活動とかが、これからの子どもたちに要るのだろうと思います。ＩＣＴコミュニケーションのような、そういう力も要ります。

しかし、人を大切にする教育も決して、疎かにはできないということで、後期の計画にあります、別府という地域をしっかりと学ばなければ、いくらよその国とか世界に行っても、別府というまちを知らなくて、人を知らなくて、文化・伝統・産業を知らなくて、そういうことは外国でもないでしょうし、ＩＣＴでもありえないので、子どもたちに、別府の埋もれているものを、しっかりと掘り起こしてあげて、それを磨いて、発信できる、そのコミュニケーションとして、英語とか色んな外国語も要るでしょうし、おもてなしも要るでしょうし、そういうことを考えますと、教育目標の、今年は切り替えですけれども、新たな教育目標として、この方向が良いのかなという風に感じております。

以上です。

〇長野市長

ありがとうございました。それぞれ委員の皆様から御意見をいただきました。具体的にこれをどうするのかという御意見もございましたし、地域との連携が進んでいるな、という実感もあると、そういう御意見もありました。

自己肯定感、私も８０何％の子どもたちが、自分をダメな人間だと思っていると聞いたときに、ちょっとこれは衝撃だなと思いましたし、留学する機会にしても、お金をあげるから行って来いと言っても行く人がいないというのも、これも少し残念な気持ちもいたしますし、マニュアル化されているというのも、まさにそのとおりだなと思います。不易流行という難しい言葉も出てきましたし、流されてはいけませんが、流行にはしっかりと、現段階のものには合わせていかなければいけないということも本当にあろうかと思います。

私も言いたいことがあるのですが、福島委員が言われたように、これが基本理念であり、目標なのですけれども、目標自体が理念になっているような気がするのですね。やはり私たちが欲しいのは、アクションプランなのです。そのアクションプランを作る上で、何が必要かと言ったら、現場の危機意識がどこにあるかというのが分からないと、私たちはそのアクションプランが作れないのですね。

いつも、我々行政側との話し合いの時に、教育委員会だけでなくて、全部の課について、そう言われています。教育長と教育参事は、総合教育会議だけでなくて様々な会議に出席しているので、分かるかと思いますけれども、まず、理念に沿って目標があってアクションプランがあるのだと思います。具体的にどういう、例えば、いじめ

をどうなくしていくかとか、学力を確実に上げていくためにはどうするのかとか言うことに対して、我々がどういうアプローチをしていけばいいのかというのが良く分からないのですよね。理念があって目標があっても具体的にこういうことをやりたいので教育委員会のみなさん方の意見を求めたいとか、ここに具体的に予算を配置して欲しい、人の配置をして欲しいということがないと、なかなかやはり難しいなと思います。理念だけで終わって、また多分、何年か経った後に理念の作り変えをして、結局数値としてどれだけの成果が上がったとか分からないまま、また数年経ってしまうということがあるのです。

だから、別府の子どもたちを、どうしたいのかという理念があって、目標がありますから、それに沿って具体的なアクションプランをきちんと教育委員会で作ってもらうと。そのアクションプランには、大きなアクションプランや具体的な行動計画はあるべきだと思いますし、学校ごとに課題は多分違いますから、学校ごとのアクションプランもあっていいのだろうなと個人的には思うのです。

アバウトにするのが一番よくなくて、どの部署もどの課にしてもＫＰＩ目標数値をしっかり設定して、それに対してＰＤＣＡを回していく訳です。だから、具体的な目標がなければＰＤＣＡを回していけないので、具体的な行動計画に基づくＰＤＣＡというのをどう確立していくのかというものが、教育の先生方には必要なのかなと個人的には凄く思うことがあります。

県がこうだから、国がこうだからというよりも、別府市が持っている強みって沢山あると思うのですよね。だから、留学させなくても、例えば、ＡＰＵに入れば留学したようなものですから、そういう強みを生かして、別府市の子どもたちの特殊能力を、他にはない能力をつけさせていって、将来のスキルにつなげていくことも含めて、具体的なものが本当に要るなと思いますね。

〇福島委員

市長が言われました、ＩＣＴのことですね。８年前にオバマ大統領が就任挨拶をした当時は、スマートフォンがなかったのですよね。今は、８年経ってもの凄い技術革新で、スマートフォンがあって twitter もある。誤魔化しが利かなくなった世の中になってしまったのです。

教育でそれをいかすとすれば、先生たちが分からないときに分からないと言ってしまえばいいのですけど、分からないまま教えると、スマートフォンで検索できる、twitter で検索ができます。

だから、子どもたちにですね、誤魔化しは絶対にきかないよと言うことをですね、本当のことを話しましょうということをですね、まず、そこからすることですね。私の思いつきの提案でございますけれども。

〇長野市長

確かに、この８年間でも全く様相が変わっていますよね。まさに先生がちょっと言っていることが違ったりすると、スマートフォンですぐググって違うじゃないかと生徒からやられるような時代だなと思いますし、まさに福島委員が言われるようなことも、是非今後、取組をしていかなければいけないなと思います。

他に委員の皆様から、何かございませんか。

○寺岡教育長
学校の方は、教科と道徳と特活と総合的な学習の時間の４つの柱で、学校教育が行われています。その中で子どもたちに色々な力をつけているのですけれども、それプラス今度は、やはり生徒指導、生活指導もございます。今は、長野市長や福島委員がおっしゃるような、保護者に信頼がないような状況が生まれますと、それが苦情とかになって、校長先生たちがそっちの方向にエネルギーを費やしていくような状況があります。子どもたちが本当に充実感のある中で、分かりやすい授業で生き生きとするのが、基本だと思っているのですけれども、授業に影響のいくようなそういう要素が入ってきたときに、なかなか学校経営は難しい状況にありますので、そこは、対応できるような組織でなければいけないということで、相談機関とか色々対応しているのですけれども、どうしても教職員の資質のところで、信頼が失われるような態度とか行動とかになると、なかなか難しい状況があるなと思っております。
ですから、教職員を支えるような、支えてあげるようなそういう部分も必要かなと思います。

○長野市長
今、寺岡教育長から言われたことですね、全体の課題としてもあるでしょうし、各小学校、中学校それぞれの学校の課題としてもあるところで、そういう課題が見えてくれば、その課題に対して具体的にどういうことができるのかとか、これだけの費用が掛かるけれどもそれは大丈夫なのかとか、そういう具体的な課題が見えてこないと、やはり難しいですよね。
総合教育会議は、おそらく教育委員会だけでは解決できない問題が沢山出て来たからこそ、行政側との接触も図りながら、外との交流も加速させていきましょうということだと思います。私もコミュニティスクールに２回出て、２回お話させていただきましたけれども、外とのいわゆる地域の人との交わりというのに、生徒たちは凄く慣れてきたなと実感しています。いいことだと思います。
だから、この方向性というのは絶対間違っていないと思いますので、これはやっていっていい、加速していっていいのだろうと思いますし、後は、別府の子どもたちのどの部分に、それぞれの学校が問題意識を抱えていて、これを具体的に、８年後さえ見通せない時代ですから、２年後だとか、４年後だとかに、きちんと軌道修正をかけながらやって行かなければいけないと思います。少なくとも別府の子どもたちにこういう能力をつけさせたいとか、こういうことを教えていかなければいけないというしっかりとした理念と目標があるので、後はきちっとしたアクションプランが欲しいなと思います。

○髙橋委員
今、教育委員会が、３か年計画ぐらいで単独学校に研究会というものをお願いさせていただいています。１年度目、２年度目、３年度目ということで研究発表があったりします。いろいろとお話をうかがいますと、その研究をなさってらっしゃる学校に

ついてはよい効果と課題の両方が見えてきて、課題が出てそれに対して先生がまた対応しているという研究成果というものを感じさせていただいているのですね。これが、別府市全体の各学校がそれぞれ３年なら３年の自分の学校の課題を持って、それを先生方、教職員の皆さん一体となって取り組んでいく、そういう姿が出てこないかなと。

私のところの学校はこういう教育目標で、こういう子どもたちを育てていこうということを研究されている学校はよろしいのですけれども、そうじゃない学校というのは、ちょっとないがしろにされているのかなという部分も感じますので、毎日が研究だという思いで取組を進めていければと。

子どもたちが、この学校で楽しかったね、嬉しかったね、よかったねという思いが、結局は人づくりになっていくのだろうし、子どもたちが生きる力として育んでいかれるのじゃないかなという思いはしております。

〇長野市長

ちなみに今、髙橋委員が言われた学校ごとの教育目標というものは、それぞれの学校にはあるのでしょうか。

〇寺岡教育長

教育目標は、一応市から降りて、それを受け校長先生が学校経営方針、学校経営目標等を作ります。それは生徒指導もそうですし、学力も学力プランというのも各学校ごとに作っておりますので、今、髙橋委員がおっしゃった、できたら校長先生たちに、自分はこの学校の子どもたちにこんな力をつけて、こんな学校を創りたいという、いわゆる交換の場というのですか、それをきちんとアクションプランという形で伝えていただきたい。

そして、教育委員会も一緒になって支えていく、あるいは他の課が必要なところは支援していくという、そういうシステムは要るなと思います。

〇長野市長

その他によろしゅうございますか。

〇明石委員

学力で時々、愕然としているのはですね、応用力が全然ないのですね。例えば、数学だったら平行四辺形の面積を求める計算はできるのですけど、その計算式を使って体積を求めるような文章題になると、回答率が半分以下になります。

ですから、そういう考える力というか、応用力というか、それを応用して自分のものにするというのが、ちょっと学力テストでは低いので、何かその辺を現場でですね、もっと工夫というか、長野市長が言われていますけれども、本当にアクションをしないと。応用していく力を養うことが非常に大事だと思います。いま、人工知能も出てきていますので。それを応用していかないと、何にもならないので。人間が人工知能に使われないようにしないといけないですから。その辺りを、もう少し具体的に決めていかないといけないという状況になってきています。何よりも一番は現場の先生がそれに目覚めて、頑張っていかないといけないので、そういう場を是非、市長・教育

委員会は、作ってあげないといけないのじゃないかなと思っております。

○長野市長
　ありがとうございました。小野委員、どうぞ。

○小野委員
　一番思うのは、子どもが育っていく上で、将来自分はどうなりたいのか、何になりたいのか、そういう気持ちが一番大事だと思うのですね。小さいときから、どんどん変わっていくと思うのですけれども、今の子は色々な情報を得ていますから、家庭環境もありますけれども、中学校２、３年になると何になりたいというのが決まっている子、例えば、高校生になって自分はこういう風になりたいけれども、どういうことをしたらいいのかとか、経済的な問題とか、相談する人とか、そういうのが必要になってくると思いますので、そういうような面でのサポートを、お願いしたいと思います。

○長野市長
　夢はよいのですけれども、夢を具体的な将来の職業として早めに目標設定をさせてあげるというのは、これは、家庭との連携も絶対に必要ですが、そういったことも、やはり本当に必要なことかなと思います。
　後で言おうと思ったのですけれども、応用というところで、さっき明石先生が言われたのですが、私、子どものプリントを見て、三角かバツかをもらっていたので、「えっ」と思ったのです。例えば、りんごを３個ずつ持っている人が５人いました。何個ですか。という設問がありますよね。３個のりんごを５人ずつですから、３×５ですよね。ですけれども、うちの息子は、５人の人がりんごを３個ずつ持っているのだという風に逆から見たのですね。ですので、３×５ではなく、５×３という式を書いたときに、三角か何かをもらっていたのですよ。それを見たときに「あれっ」と思った訳ですよ。同じじゃないかと思ったのですよね。だけど、３個ずつが５人だから３×５じゃないと、だめだと言われたのだろうなと。息子にそうだろと聞いたら、「うん、そう言われた。」と言っていたのです。
　こういうところにこそ、子どもの応用力を高める芽が潜んでいるのでないかと思うのですけれども、どうでしょう。

○明石委員
　要するに、覚えなさいと言ったら、我々も、中学のときは、発音しながら、書きながら覚えてきたのですね。
　そうやって覚えると、凄く時間が掛かるのです。覚えなさいと言ったときに、絵を見ながら、人を見ながら、３個ずつを５人でしょ、そういう風にして覚えるというのが、優等生の教え方なのですね。だから、優等生の教え方は、覚えやすいのです。書きながら暗記するよりも、数学でも何でも絵がまず浮かんで、そして、国語でも富士山が出たら富士山の絵を描いて覚えていく。一生懸命覚えていくというのは、大変なのです。

だけど、絵で覚えながらすると、人間は、その視覚というか、まだアナログ的な発想が多いですから。ここには先生たちが結構いらっしゃると思いますけれども、是非絵が頭に浮かぶようなことで覚えさせると、じわじわと覚えられますね。歳を取って試験を受けないといけないのは嫌なのですけれどもね、絵で覚えるとやはり一発で受かるのですよ。

○長野市長
それはそれで、良い訳でしょうか。

○福島委員
もの凄く正しいと思います。

○長野市長
私が思っているのはですね、考え方としてはよいのだよ、ということを教えることが大事なのだということですよ。それを、バツとなったら、僕は違うのかと。発想としては、正解だと思っているのですよ。こういう考え方もあるのだけれども、一応こういう順番で書くのだよという教え方をしてくれれば、いいのかなと思ったのです。僕は将来、発想としてですよ、逆の発想も必要だろうなと。そういう考え方も、生きていく上では必要だと僕は思っていたので。それを、三角をもらったときに言葉も何もかけてもらえなかったら、これはどうなのだろうと素朴に疑問に思った訳ですね。
福島委員が言うのだから、間違いないと私は思うのですけれども、そういうところも、ひとつ声を掛けるか掛けないかというところも大事なのかなと。「いいんだよ。基本的にはそういう考え方もあるけれど。」というのがあればですね、「あ、なるほど。」と。それが分かって将来に進むのと、それがダメだと思って将来に進むのと。多分うちの子供は疑問に思っていました。「いいんだよ、これでいいんだよ。」と言ったのですけれども。ただ、順番が違っただけだなと言うしかなかったので、ちょっと僕も素朴に疑問に思った訳ですから、質問させていただいたということです。

時間も押してきましたので、質疑はよろしいですか。

貴重な御意見をいただきまして、ありがとうございました。委員よりいただきました御意見につきましては、再度事務局で検討させていただきまして、教育委員の皆様に個別にまた御説明をさせていただく機会を作りたいと思います。
それでは議題（２）その他であります。この際何かご意見がありましたらよろしくお願いを申し上げたいと思いますが、いかがでしょうか。

○寺岡教育長
別紙がございます。平成２８年度別府市学力調査（小学校３年生～中学校２年生）の結果概要のピンクのマークが出ていますけれども、これは昨日学校教育の方に成績の結果が出まして、真ん中の所の同調査比較というところがございます。今までの別府市の学力調査、ですから今の小学校２年生が１年経って、小学校３年生でございま

す。ここの結果の三角が、マイナスでございます。つまり、平均点が下がっていたのですけれども、ここの基礎応用、算数の基礎活用、理科の基礎活用もマイナスではなくて、非常に定着していたという結果が昨日届きました。

裏面は中学校でございますが、これも同じように、今の中学校１年生、中学校２年生ですから小学校６年生と中学校１年生の子どもたちでございますが、理科の活用が０．３のマイナスで、後は平均点をクリアしているということで、聞いてみますと、この中学校１年、中学校２年の学年は小学校の頃から非常に落ち着いた学年であったというように聞いております。今回は別府市の学力調査は今での努力がよい方向に出たということで、４月にまた全国と県がございます。

今、長野市長がおっしゃった、その応用力とか活用力がですが、ここがどうも厳しいところなのですけれども、どうしても一方通行とか講義調の授業が、中学校とかに、まだございます。ですから、今のような発想の子どもさんが置き去りにされたまま、授業が進んでいくような状況がございます。

教師の仕事の１番の醍醐味というのは、教材を教師が厳選して、教材のよさとか価値をしっかりと指導案に入れ込んで、教室に入ることです。子どもたちと、その教材で授業をして、ぶつかり合いですね。そこが、ひとつの勝負、戦いと一緒なのです。

子どもが発想をしていって、教師の発想とぶつかっていくと、今度は子どもたち同士が自分の意見を交換し合うことで居場所ができる、あるいは自分を認めてくれるような授業というのが、非常に子どものモチベーションを高めると思います。

ですが、教育ということを考えたときに、例えば、今の授業の中で雪が解けたら何になるというと、液体の水といいますよね。だけど、それを春という子がいたら、そのときに先生が、すごいなあと言ってくれる先生なのか、それはダメと言うのか。しかし、正解ではありませんから、それは水だよときちんと押さえないと悪いのですけれども。教育の未来を考えるとき、そういう風な教師もいると、応用力とか、あるいは夢が広がるかなというところであります。

ですから、今回の結果は、そういう形で少しずつ定着し始めているということですので、更にそれのＫＰＩとアクションプランを別府市全体で考えていければと思っています。機構改革で来年度から教育総務課が、教育政策課という名前になりますので、ここが中心になって今のようなことを、校長先生らと協議させてもらいながら進めたいなと思っております。

○長野市長

本当にアバウトではダメだというのは、行政の一般の政策でもそうなので、教育委員会においても、ＫＰＩをしっかり作ってアクションプランに対してのＰＤＣＡを回していって、修正をかけていくということを、やっぱり一緒にやっていかないといけないのかなと思います。

雪が解けたら春になる、よい答えですね。バツですけどね。声を掛けていただきたいですね、素晴らしいということを言っていただければ。

それでは、他に御意見はないでしょうか。

○月輪総務課長
　事務局からですが、今後の総合教育会議につきましては、教育環境の整備と重点的に講ずべき施策や緊急の構ずべき措置などについて協議の必要が生じた場合に、また開催させていただきますので、その際は御協力のほどよろしくお願いいたします。

○長野市長
　他によろしいでしょうか。
　以上で、議事を終了させていただきます。御協力をいただきましてありがとうございました。進行を事務局にお返しします。

○本田総務課参事
　御協議ありがとうございました。
　これを持ちまして、平成２８年度第１回別府市総合教育会議を閉じます。
　本日は御参加いただき、誠にありがとうございました。